



常任委員会だより



総務常任委員会の付託案件は十八年度一般会計予算の内歳入全般の外に歳出の議会費と総務費。四個の特別会計と七個の条例。この報告では主として一般会計予算の歳入について述べる。

一、仙北市の一般会計予算

総額一八三億八、八〇〇万円であり、十七年度旧三町村予算合算額より十七億四、二七〇万円多い。増額の主な原因は十九年度国の準備費（約七億六千万円。角館統合小学校建設費七億五、七五〇万円。角館駅東地区のまちづくり交付金事業費二億八、〇〇〇万円などの大型プロジェクトが実施されるためである。歳入では市民税は所得税に準ずるので大差なく、固定資産税は土地価格の下落で十％減と見込んでいる。

市の財源の七四・一％を占

める国、県の支出金では増えたものに国の所得贈与税が七八％増で二億円。減らされたものでは国の地方交付税が二・四％減で七二億三千万円。県からは合併交付金一億二〇〇〇万円が目立つものである。

又合併により市の福祉事務所が発足したので児童手当、母子支援、生活保護費などに国庫負担金が増額された。財源不足を補うための市の財政調整基金から九億円を取崩し繰入れている。又市債（借入金）総額二十億五七〇

〇万円を見込み、かなりきびしいものとなっている。合併特例債から一億三、二〇〇万円と借入れてこれをふるさと振興基金に積み立てるがこれは今後毎年続けて十三億二、三〇〇万円の基金とし、取崩し型でなく果実型で市民のイベントなどを支援する。

十八年度の当初予算では人件費、扶助費、公債費など義務的経費が四十九％近くを占めているが、平成十六年度よりは人件費で四、八〇〇万円程減少している。然し扶助費が一億八、一〇〇万円の増となっている。

十八年度末の市債（借入金）残高は二二七億一、九〇〇万

円となる見込み。市の財調基金ではわずかに七〇〇万円余りとなる見込みである。

市の財政指数は公債費率一九・六％となり二〇％で赤字号とされ、起債制限比率は十三・三％で期限を受ける二〇％にまだ開きがある。

経常収支比率は九九・七％の見込みで国の指標からは八〇％を超える危険ゾーンと言われているので総体的にきわどい財政体質と言わざるを得ない。

委員会では角館統合小学校の建設場所、工事費の内訳など初歩的な資料が会議の後半に示されたり、又角館駅東地区の事業の費用対効果について当局の説明を求めると、審査の中で当局の事前説明の不足や合併協議などの段階で決定されて新年度の事業費計

上に至ったのか、などがすつきりしない点の質問が多くなされた。

一般会計予算は討論、採決の結果賛成十一名、反対六名で原案の通り可決となり委員長から十七日の本会議で報告することとなった。

特別会計四個は原案の通り可決。条例七個の内市一般職の職員の給与に関する条例の一部改正の件については異論があり、討論採決の結果十四対三の多数で原案可決。その他六個は全員賛成原案可決となった。

なお十二月定例会に県労働組合総連合などから提出されていた『庶民大増税の中止を求める陳情書』は全員賛成で可決し政府に対し意見書を提出されることとした。



統合される角館東小学校